

復興へ向けて①



被災者（山崎）
眞崎 良二 さん

「災害当時の状況を教えてくださいー」

予測もつかないほどの速さで川内川と久富木川の水かさが増してきて、住宅地へ水が流れ込む危険を感じ、いち早く地域住民へ公民会放送で危険であることをお知らせし、避難を呼び掛けました。その間、住宅地へほとんど水が流れ込み、あつという間に浸水し、当時は時計を見る余裕もなく、危険地域を駆け巡りました。

「災害後の心境を教えてくださいー」

今回のような大規模な豪雨災害は生まれて初めてであり、まさか、山崎、二渡地区が被災を受けるとは思いもせ

「昨年、大切なことや必要なことについて、また思いについて7人の方に話を聞きました。」

店舗再開と周囲の住宅復旧はうれしい限りです

んでした。家財道具など皆さん全てダメになりましたが、何とかしなければという思いの中での復旧作業では、建設業界など多くのボランティアの方々に手伝って頂き、ありがたい気持ちでいっぱいでした。それぞれの店舗も被害を受けましたが、今では、将来に向けて頑張っていこうという気持ちになり、ほとんどの店舗が従来どおり再開され、うれしい限りです。

被災者の思いを届けたい



被災者（虎居）
村田 修 二 さん

「災害当時の状況を教えてくださいー」

災害当時は、川内川の様子がいつもと違うことを知り、川岸に向かいました。10時30分頃、川下に水が流れ込まなくな

地域も少しづつ元を取り戻していますので、激特事業で二度とこのような災害が起こらない川内川改修を被災者をはじめ、地域住民も望んでいます。また、地域づくりも必要です。住民は、

川内環境や住環境を配慮した川内改修になることを望んでおり、久富木川の線型の変更も重要な要素であり、それらを含めて、住民の意見を十分に反映して頂きたいと思っています。

ため、氾濫する危険を感じ、行政からの避難勧告を待たずに10時45分に家を飛び出しました。その後、川の急激な増水と予想を遥かに超える勢いで水が流れ込んできました。

当時を振り返ると、危険を感じたとき、行政からの避難情報がある前にいつでも避難ができる準備をしてくださいと公民会の方々に周知を図るべきだったと反省しています。

「当時、公民会長として取り組まれたことは何ですかー」
被災直後は、公民会長として

「これまで、被災者代表としても様々な要望活動をされてきましたが、そのときのお気持ちをお聞かせくださいー」

自分たちの思いをしつかりと伝えなくてはならないと公民会長の間で話し合いをして、被災者の会を立ち上げました。

昭和47年の水害時も様々な要望を行ってきたにもかかわらず、これまでこれといった河川改修もされないままです。今回の水害で被災者の間では、ダムへの不信や河川事務所に対する不満が多くありました。三度、こ

のような災害が起こらないよう被災者の意見をしっかりとまとめて、要望書の提出や要望活動に努力しました。

「要望活動の成果としては、洪水期に限り、ダムの貯水水位を120mまで下げる放流操作の見直しがされたことです。河川改修も本格的に始まり、地域住民の意見が反映されることを望みます。」

「復興への思いや意見をお聞かせくださいー」
工事の在り方次第では、虎居町商店街に大きな影響を与える

「高齢者や障害者など災害弱者と言われる方々の避難支援について教えてくださいー」
災害時要援護者と呼ばれる、高齢者や体の不自由な方々の避難とその方法が重要な課題となっています。

現在、民生児童委員の皆様は調査していただいた高齢者実態調査などの資料を基に、昨年の豪雨災害を教訓にしながら、災害発生時にどのような支援が必要か、災害時要援護者避難支援プラン」という計画書の策定作業を進めているところです。一人ひとりの個別支援計画まで作成し、それを地図情報にして災

自主防災の組織力が重要ですよ



総務課長
湯下 吉郎 さん

「災害などの緊急時には、自助、共助の自主防災が大切だと言われていますが、自主防災の必要性和在り方について教えてくださいー」

災害及び緊急な事象は、いつでも発生するか予測がつきません。地震や豪雨災害など広域

的・大規模な災害の場合は、電話の不通、道路の寸断など公的防災機関の活動が著しく制限されることを想定されます。

災害発生時には、防災・消防機関の到着までの間に、隣近所や地域の実情に詳しい方々の活動が有効です。このようなとき、被害の防止や被害の軽減、災害時要援護者などの避難を素早く迅速に行うためには、各自バラバラに行動するよりは、住民が団結し自主防災組織を結成して組織的に行動することで、防災・減災に効果が発揮できます。

「町内で自主防災組織はいくつあるか教えてくださいー」
91組織です。結成率は、72.3%で、加入世帯7,833世帯

を町内の全世帯10,833世帯で除した数です。自主防災組織は、公民会単位での結成がほとんどです。

「町民の防災意識の向上について、必要なことを教えてくださいー」
町では、昨年の豪雨災害の反省を元に、住民の皆様は防災に必要な情報を広報紙に掲載したり、防災行政無線で呼び掛けたり、防災リーダー研修会の開催や防災訓練を行ったり多くの改善と対策を行っています。

「私たちの町も、いつまた大規模な災害に見舞われるか分かりません。このような事態から、自らの生命・家族・財産を守るため、刻々と発表される防災情報などを正しく理解し、迅速な避難行動に結びつけられるよう心構えをして欲しいと思います。」

12月15日

豪雨災害被災地区連絡会議が町と議会に対し12,658名の署名簿を添えて要望書提出

12月22日

ダム再開発事業が採択

12月27日

河川激特事業の測量開始



■平成19年

1月1日

災害復興対策室を設置

1月23日

豪雨災害被災地区連絡会議、町、議会が県へ署名簿を添えて要望書提出

2月6日

第1回鶴田ダムの洪水調節に関する検討会

2月27日

河川激特事業「川づくり研修会」

2月28日

第2回鶴田ダムの洪水調節に関する検討会

3月17日

鶴田ダムの洪水調節に関する検討会と地域の方々との意見交換会

3月27日

第3回鶴田ダムの洪水調節に関する検討会

4月1日

災害復興対策課に変更

4月26日

第4回鶴田ダムの洪水調節に関する検討会

5月13日

川内川水防演習

5月22日

川内川宮之城地域景観水理模型実験説明会

5月29日

第5回鶴田ダムの洪水調節に関する検討会

6月2日

水理模型実験ワークショップ検討会



6月14日

公民館長・公民会長・自主防災組織のリーダー防災研修会